

2026_0814「1都7県を通過した台風15号」日々の理科 4387号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

2026年の台風15号（チャンホン）は、日本付近の台風としては非常に珍しい「東から西へ進む」コースをたどりました。太平洋から茨城県に上陸した後、千葉県、埼玉県、東京都、山梨県、長野県、岐阜県、福井県の順に、実に1都7県を通過し、日本列島をほぼ真横に横断して日本海の若狭湾へ抜けました。掲載した気象庁の経路図を見ると、その異例ぶりが一目で分かります。

通常、日本付近まで北上した台風は、上空を西から東へ流れる偏西風に乗れ、北東方向へ進んでいきます。ところが15号は、これとはほとんど正反対に西へ進みました。背景には、盛夏で偏西風の主流が日本より北へ離れていたことに加え、東アジアから西部北太平洋に広がる大規模な低気圧性循環「モンスーンジャイア」の影響があり、台風を運ぶ「指向流」が通常とは大きく異なっていました。

さらに重要だったのが、偏西風の本流から切り離されて南下した上空の「寒冷渦（離切低気圧）」です。寒冷渦も周囲に反時計回りの循環をつくるため、その位置関係によって台風の進路を南寄り、さらに西寄りへ導く作用をしました。つまり今回は、モンスーンジャイア、高気圧、そして寒冷渦という複数の大きな渦や気圧配置の間に台風15号が置かれ、通常とは逆向きの流れに運ばれたことになります。

台風は自ら移動することはできません。周囲の大規模な大気の流れに運ばれる巨大な渦です。太平洋から関東へ入り、本州中央部を西進して若狭湾へ抜けるという15号の異例の進路は、偏西風から切り離された寒冷渦を含め、上空の気圧配置が台風の進路を大きく左右することを、実に鮮やかに示した事例といえます。

（2026年8月上旬／気象庁台風進路図）

